

# 伊豆の国市の地域資源を活用した周遊プランの作成

日本大学 国際関係学部 矢嶋ゼミ  
指導教員：准教授 矢嶋敏朗  
参加学生：伊豆澤祐奈、伊東愛莉、今井陽稀  
大竹瑠夏、大津太志、日馬孝昌  
佐藤匠、佐藤ののか、柴田葉名  
高橋芽衣、中村有里、西山遼  
廣瀬由芽、宮川祐、山崎裕人  
山下陽子 渡邊聖菜

## 1：要約

2021年東京オリンピック・パラリンピックの自転車競技会開催や、2022年NHK大河ドラマが伊豆の国市にゆかりのある「北条義時」に決まったことにより、伊豆の国市が観光において注目されることが予想されている。伊豆の国市は、首都圏からのアクセスがよい反面、伊豆縦貫道の開通等もあり「通り道」となる傾向もある。市内の温泉・史跡・観光農園等を「E-bike」（スポーツタイプの電動自転車）を利用し周遊、長時間滞在や宿泊に結びつけるかを研究し、PR動画の作成を行った。

## 2：研究の目的

新型コロナウイルス感染症の拡大により、世界中の観光産業が苦戦しているが、伊豆の国市もその例外ではない。従来の、伊豆半島の旅行スタイルは、貸切バスを連ねて訪れる「団体旅行」が中心で、伊豆の国市の伊豆長岡温泉はその典型的な温泉街であった。しかしながら、旅行スタイルのニーズの多様化（個人旅行化）で、団体型の同温泉街の宿泊客は新型コロナウイルス拡大以前から漸減傾向である。本年2021年には東京オリンピック・パラリンピックの自転車競技が伊豆半島で開催される。元来、伊豆半島は自転車施設や地形から自転車愛好家には聖地的な立地。本研究では、オリンピック・パラリンピックのレガシーとして、伊豆の国市を中心に伊豆半島地区への「サイクルツーリズム」の定着をさせ、今後の観光客の中心となる“個人客”誘客を研究することとしたい。

## 3：研究内容

コロナ禍においても、観光客を誘客し続けるために、E-bikeを利用した自然豊かな伊豆の国市だからこそできる「三密を避ける旅行」をコンセプトに若者を対象としたPR動画を作成した。

### (1) 伊豆の国市についての事前学習

現地調査を行う前に、伊豆の国市の観光産業・E-bikeの性能、について入念に調査した。そして、調査した状況を各自でまとめプレゼンテーションを行うことで様々な視点からの理解に繋げた。それに加え、E-bikeを部屋まで持ち込むことができる新しいスタイルの旅館コナステイ伊豆長岡運営会社、㈱コナリゾート執行役員横山圭新様に講義をしていただき、知識を深めた。そして、伊豆の国市の武器である火山反射炉や足湯などの観光資源をPRする動画作成に活かした。

### (2) 実際にE-bikeを体験する現地調査

はじめに、E-bikeや伊豆の国市の良さを実際に確認するために、E-bikeを利用し、市内全体の観光資源を調査する周遊調査を行った。

E-bike で周遊して一番に感じたのはその地域と一体となって(密着した)観光をできることだ。普段、我々の移動手段は車や電車、バスを主として生活をしている。その際に通っている町や地域の情景を覚えているだろうか。E-bike の良さは目的地に行く過程にある街並みや人との関わりも最大限に記憶に残る事である。その観光地に行く際の道での些細な発見や地域の人とコミュニケーションをとったりする「過程」の部分も旅にできるのだと学んだ。

また、E-bike の強力なアシスト性能も実際に体験したことにより、観光客誘致の大きな可能性を感じた。伊豆の国市には多くの「坂道」があり、普通の自転車で移動するのは非常に困難だと感じた。しかし E-bike は女性やお年寄りの方でも問題なくどのような道でも楽に移動が可能だ。夫婦やカップル、幅広い年代にも対応している移動手段だと言える。

コロナ禍で三密を避けながらの旅行に E-bike を利用しての旅は非常に有効だと肌で実感した。

伊豆長岡温泉街では廃業した旅館南山荘を有効活用した地域活性化イベント「お散歩市」を毎月開催している。私たちもそれに参加させていただいた。

以上の内容を踏まえ、伊豆の国市の地域活性化と観光客増加のためゼミ内で意見を出し合い、コナステイ伊豆長岡様、メリダ X ベース様、伊豆長岡ミライ会議様のもと PR 動画を作成した。

## 4 : 研究の成果

### (1) 当初の計画

当初は、伊豆の国市の有力な観光資源「電動自転車 (e バイク)」利用の観光客増加を目的とする「E-bike MAP」を市内くまなく歩き作成する予定であった。

### (2) 実際の内容

Aは予定どおり、Bは内容一部修正、Cは中止の選択肢があったが、「B内容一部修正」で実施をした。その理由として、新型コロナウイルスの蔓延のより、フィールドワーク数を減少する必要があった。スマートホンの動画機能を利用して、動画であれば、訪問回数を制約した中での活動も可能と判断した。

また、観光客数も減少するため、現地で配布するMAPよりも、“ポストコロナ”の観光客誘客を目指し、e バイク観光の魅力を一時的にアピールする「動画」を撮影することとした。

### (3) 実績・成果と課題

#### <実績>

今回添付の「矢嶋ゼミ presents 伊豆長岡自転車の旅 (3 密を回避する新常態の旅)」動画 (撮影時間約 5 分 10 秒) を完成した。伊豆の国市の観光スポットや今後、伊豆の国市関連のHP等で公開し、E-bike 利用観光客誘客に寄与を目指す。また、E-bike の利便性 (特に、坂道の走行性) もアピールを目指した。

#### <課題>

#### ①自転車のルール (道路交通法) が厳しい

→ヘルメット着用、左側通行、などが守れておらず、使用できない動画が中にはあった。

日常自転車を利用しているが、道路交通法におけるルールが思いのほか厳しかった。

観光客への交通ルール厳守のアピールが難しい。

#### ②コロナ禍で取材に行くことが難しい

→地元の企業側も我々も最大限に感染対策を行いながらの取材となった。本来、ロケハン (下見) を

複数回実施したかったが、下見は1回。また取り直しも不可能。ゼミ時にオンラインでプロカメラマンの指導を受けたが、内容的には最低限の内容（映像）となってしまった。

③コロナ禍における、ゼミ内での連携。特に、映像の編集工程の共有化

→学校に行って実際にゼミ生に会うことができないため、分担する作業毎の進行具合が分かりにくかった。

#### (4) 今後の改善点や対策

①に対しては、ゼミ生全員で現地調査を行う前に交通ルールの確認、撮影方法の統一を入念に行うべきだと考える。

②に対しては、メールや電話で早い段階からアポイントを取り、現地に行くかオンラインで取材をするのかどちらでも対応できるようにしておくべきだと考える。

③に対しては、常に最悪の想定（緊急事態宣言が出るなど）をして置き、明確な役割分担、作業の期日を決めることで、効率よく作業を進めるようにする。

## 5：地域への提言

### <感じた課題>

①歩道が狭いため、道路の区画整理をするべきだと考える。自転車専用の設置の必要性。（現実的には道路を新設整備するよりも新たな交通規制による自転車優先道路等の指定が望ましい）

②サイクリングルートに食事施設（店）が欲しい。

③伊豆長岡駅から伊豆長岡温泉への路線バスの本数が少ない。伊豆長岡駅にE-bikeを設置し、移動の不便を解消してほしい。（伊豆長岡温泉駅の観光案内所を活用検討してもらいたい）

④路線バスに乗車した際、ICカードが使えず不便な思いをした。（全員の共通意見）

⑤E-bikeの広告を駅や伊豆箱根鉄道の交通広告（車内や駅）に掲示し、もっとPRすべきである。

⑥メインストリート（温泉街）の店舗や宿泊施設が少なく全く活気がない。

⑦上記②～③を鑑み、が推進する、伊豆における観光型Ma a S実証実験実行委員会（主体：㈱東急、伊豆箱根鉄道等）が推進する観光型Ma a S「IZUKO」のとのより強力が必要であると考え

### <感じた強み・魅力>

①東京からのアクセスの良さ。特急踊り子号に乗車すれば2時間。（東京からの直通特急が走るのに、何故こんなに閑散しているのか不思議）

②自然と歴史・文化を体感できるスポットが短時間で周遊できるコンパクトな観光地。

③E-BIKEで観光するにあたって、自分自身の体力に合わせたコース選択ができる豊富なフィールドが元々あり、初心者から上級者まで楽しむことができる。

④地域の人同士の繋がりが強く皆さん優しかった。

⑤風情溢れる温泉街

⑥山へも海へも周遊しに行くことのできる立地とサイクルツーリズムを助長する地域社会

## 6：地域からの評価

・下見から実際の動画撮影まで、限られた時間の中で熱心に与えられた課題の本質を掴もうとする姿勢は大変好感が持てました。動画については、やはり限られた時間の限界で事業者や地域として伝えて欲しい所がぼやけてしまった印象を受けました。

全体的には今後の地域活性化の取り組み活動として新しい視点を頂いたこと、感謝と共に評価いたします。

(コナスティ伊豆長岡 支配人 / (株)コナリゾート執行役員横山圭新 様)

・E-BIKE という乗り物がどんな乗り物なのかわかりやすくとてもいい動画だと思います。何よりE-BIKE を使って楽しんでいる様子が見ている側にも伝わるので乗ってみたいと思わせる作品になっていると思います。

・E-BIKE 使って伊豆の国市の名所を巡ることが手軽に出来るということが伝わる作品だと感じました。

(メリダジャパン(株)ブランドマネジメント部 MERIDA X BASE MANAGR 品川真寛 様)

・若者が SNS を用いながら、市内を楽しそうに周遊する様子が表されており、従来あった市の PR 映像にはない視点のものを作成いただきました。周遊ルートが分かるような地図を加えれば、より分かりやすい映像になるかと思えます。(伊豆の国市 観光文化部 観光課 山田 大貴 様)

・伊豆半島を最大限に満喫するにはE-BIKEは最適なモビリティです。特別なサイクリストだけのものだった伊豆半島の楽しみが、E-BIKEによって女性やアクティブシニアでも気軽に体験できる機会を提供してくれることを、今回の矢嶋ゼミの皆さんの調査研究が証明してくれました。コロナ禍で旅行の楽しみ、移動の喜びが大きく変化することになりますが、E-BIKEの提供してくれる様々な体験は、環境負荷を抑え、地域における持続的な観光誘客とまちづくりを考える上で、大きな気づきを与えてくれるものになりました。

E-BIKE が日本で一番多い伊豆の国市が中心となり、周辺自治体と協力して伊豆半島全体の魅力を高める取り組みへと、是非つなげるためより一層、地域と連携した調査研究が続きますよう重ねてお願い申し上げます。(伊豆長岡温泉ミライ会議 事務局/(株)プラスニューオフィス 今井 裕久 様)



下見時 韮山反射炉



下見時 コナスティ



撮影風景 メリダXベース